

学習支援の場



子どもたちへの支援

被災や避難の経験から、あるとよいと思う支援について聞いてみたところ、「物資」や「経済的な支援(学費・生活費)」、「住まいに関する支援」に次いで、「進学・就職相談」や「学習支援」を望む声が多くありました。

名古屋市内や岐阜市内では、被災や避難による経済的負担が大きいことから塾に通うことが難しいお子さんに対して、大学生や元教員による無償の学習支援が実施されています。単に勉強をするだけでなく、同じように避難をした同年代と出会う場や、地域の学校情報の入手や進学相談ができるなど、家や学校以外の大切な居場所にもなっています。一方で、実施地域が限られており、参加したくても遠くて行けない人もいたことから、支援の広がりが必要です。

子ども・若者の声

- 大学生のボランティアがありがたかった。留学生が月1回、自宅に来て勉強を教えてくれた。病気も抱えていたので、教えてもらっていても難しい部分があったけど、頭もいいし、効率的に動いていてすごいなと思っていた。

(福島県白河市:当時中学2年生)

- 愛知にきてから1年くらい心理カウンセラーに通っていた。環境が変わって自分で思っていたより負担がかかっていたみたい。

(福島県西郷村:当時小学4年生)

311県外避難者について考えよう